

「えびの市水道事業経営戦略（後期計画）素案」に対するご意見募集の結果について

「えびの市水道事業経営戦略（後期計画）素案」について令和５年１２月２０日（水曜日）から令和６年１月２２日（月曜日）までの間、市ホームページなどを通じて皆様からのご意見を募集しました。

その結果、１名の方から６件のご意見をいただきました。貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。いただきましたご意見及びそれに対する市の考え方につきましては、以下のとおりです。

番号	該当ページ	該当箇所・項目等	ご意見	市の考え方
1	13	第４章 １ (1) 財務に係る課題	「この結果、現行の料金水準では長期的に見ても赤字決算の解消が困難であるため、仮に平成 22 年度料金改定以前の水準の料金に基づくシミュレーション結果を示します。」と書かれていますが、下の「①給水収益」のグラフの右側は、将来の料金改定後のグラフだと思われます。そうであれば、「平成 22 年度料金改定以前の水準の料金に基づく」という部分は表現が不適切ではないでしょうか。 例えば、「この結果、現行の料金水準では長期的に見ても赤字決算の解消が困難であるため、仮に現行料金を継続した場合と、令和 5 年度以降に増額改定した場合の料金に基づくシミュレーション結果を示します。」と変更してはどうでしょうか。	ご意見のとおり表現に分かりにくい点がありますので、「この結果、現行の料金水準では長期的に見ても赤字決算の解消が困難であるため、現行料金を継続した場合と仮に令和 7 年度以降に料金改定を行った場合のシミュレーション結果を示します。」という表現に修正いたします。
2	13～14	第４章 １ (1) 財務に係る課題	右側のグラフ上部に【改定後】と記載されていますが、何の改定後なのか不明なので、【水道料金改定後】と記載すべきと考えます。	ご意見を踏まえ、「改定後」を「料金改定後」に修正いたします。

3	13～14	第4章 1 (1) 財務に係る課題	右側のグラフ【改定後】の根拠となる料金改定についてのデータを記載すべきです。 試算だとしても、シミュレーションをどのような料金改定データで行ったのか明記すべきです。 シミュレーションのデータを公表できないのであれば、改定後のグラフは削除した方が良いでしょう。 料金改定をしなければ収益等が悪化することを説明すれば良いでしょう。 また、料金改定をすれば給水収益等が改善するのは当然であり、給水収益等が改善するグラフを掲示する場合は、シミュレーションに使用した料金改定(試算値)の推移と合わせて掲示すべきだと思います。	料金改定につきましては、えびの市水道料金等審議会でも適正な水道料金について審議した後、議会議決を受け改定されるものでありますので、改定率等の記載は控えさせていただきます。
---	-------	---------------------------------	--	--

4	16	第4章 2 (1) 経営改善への取組（短期～中期的な課題への対応策）	えびの市水道事業の健全な発展のためには人材育成は重要な要素です。今回の経営戦略には経営健全化や企業会計についての記載にとどまっています。これらも重要ですが、水道管の保全や建設などに必要な技術力向上についての言及がなされていません。職員の技術力向上や水道管の保全についての最新技術の研究や導入検討も必要だと思います。 なお、市職員の技術力を高めることは困難だから、民間に委託するというのは間違った考え方だと思います。市職員が水道技術者としての誇りをもって従事できるよう技術力を高める取り組みが必要だと思います。	〈人材育成の取組〉の中に「日本水道協会などが主催する研修会や講習会への参加」と記載しておりますが、この研修会や講習会の中で漏水防止講習会や技術研究会が開催され、毎年、職員を参加させております。 技術研究会におきましては、施工方法や埋設する配水管の材質や水質衛生に関する研究などが行われ、また、漏水防止講習会におきましては、スマートメーターの導入や人工衛星画像・A I 等を活用した漏水調査など、最新技術についての研究が行われているところであります。 今後も各種研究会等に参加し、職員の技術力向上と最新技術の研究に努めてまいりたいと考えております。 また、令和6年度におきましては、水道技術管理者の資格取得も予定しております。
---	----	--	--	--

5	18	第4章 2 (2) 安定的な水源の確保（長期的な課題への対応策）	「仮に令和 5 年度から水道施設更新計画に基づいた施設更新を行うと仮定した場合のシミュレーションを以下に示します。」と書かれていますが、ここに記載されている水道施設更新計画がどのようなものかわかりません。補足などで、水道施設更新計画の概要や考え方を記載すべきと考えます。 また、7 行目までは、又五郎谷水源に代わる「水源の確保」の取り組みが必要だという説明ですが、その後の説明が給水収益等の財政面についての内容に転換しています。 又五郎谷水源に代わる「水源の確保」としての、具体的方策の概要を記載することが必要だと思います。 また、代替水源の確保のためにどの程度の予算が必要となるのかなどの概要を記載した上で、料金改定の必要性なども併せて説明すべきではないでしょうか。	水道施設更新計画の概要については、「水道施設の現状把握とリスク分析に基づき、新たに地下水を水源とした浄水場を整備し災害に強い水道システムを構築するとともに、水道施設の計画的な更新と適正な維持管理を確実に実現できるよう、維持更新経費の抑制と平準化を合理的に進め、健全な姿で次世代に引き継いでいくことを目指して、令和4年度に水道施設更新計画を策定しています。」を記載いたします。 また、料金改定の必要性などにつきましても、えびの市水道料金等審議会で審議していただくものになりますので、記載は控えさせていただきたいと思います。
---	----	--	--	--

6	18	第4章 2 (2) 安定的な水源の確保（長期的な課題への対応策）	このグラフと先ほどの2行「仮に令和5年度から水道施設更新計画に基づいた施設更新を行うと仮定した場合のシミュレーションを以下に示します。」を見ると、「水道施設更新計画に基づいた施設更新」をすれば、給水収益等が改善されるように読み取れます。 しかし、給水収益等の改善は水道施設更新計画というよりは、水道料金の増額改定によるものだと推察されますが、料金改定の内容が示されていません。4つのグラフのシミュレーションの前提となる料金改定の内容を記載すべきと考えます。 また、給水収益は料金改定を繰り返しながら右肩上がりで上昇し、資金残高も右肩上がりで上昇している一方、企業債残高も令和35年度まで上昇する見込みとなっています。 資金残高を積み上げていることは、必要以上に水道料金を高くしているように思われることや、資金残高を増やすよりは企業債の残高を減らすべきとも考えられます。これが水道事業会計の特質として必要なことであるのであれば、その事情を簡明に記載するようご検討いただきたいと思います。	料金改定につきましては、えびの市水道料金等審議会でも適正な水道料金について審議した後、議会議決を受け改定されるものでありますので、改定率の記載は控えさせていただきたいと思います。 資金残高につきましては、公営企業会計の特質として投資額が大きくなるとそれに伴い現金支出を伴わない減価償却費も大きくなり資金残高は増加していくものであります。 ただし、今後、水道事業を行っていく中で、損益の状況や企業債の利率などを見極めながら、企業債の新規発行額や資金残高につきましては検討してまいりたいと考えております。
---	----	--	--	---